

---

# 短い人生

紅林 藍

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

短い人生

### 【Nコード】

N1094H

### 【作者名】

紅林 藍

### 【あらすじ】

もし、あなたが「15歳までしか生きられない」と先刻されてしまったらどうしますか？これはある少女が病気と必死に戦う姿を短くしてまとめたお話です

「残念ですが、15歳までしか生きられません」

幼い私に突きつけられた重い現実。

私はその現実言葉に言葉を失った。

私の親は涙を流しながら

何度も　　何度も

私にあやまってくれた。

「健康な体にしてあげられなくてゴメンネ。。。  
変わってあげられなくてゴメンネ。。。」

私はそのたびにこう言う

「私は生まれてこれただけで幸せだよ。  
これは私が背負う運命だったんだよ。  
だから、生んでくれてありがとう。」

そんな私は入退院のくり返し

そして時々起る発作

私以外にも誰もいなく、真っ黒な世界に閉じ込められる

‘死’というのはこんなものなのかな？

ここから、出られなくなったら‘死’なのかな？

そんなことを考えてしまう発作

たくさん薬を飲む毎日

それから、10年が過ぎ私は16歳になった

でも私は中学2年生までの勉強しかわからない。

それは私が入院して2年も退院していないからだ。

今の私はもう動けない。話すことさえままならない。

確かに感じるのは、親の手のぬくもりだけだ。。。

その時、母が言った。

「あなたはよく頑張った。1年もながく生きた。だから、もう疲れたやろ？」

もう、おやすみ」

そういうと優しく頭を撫でてくれた。

ああもう時間なんだなあ

「…ありがとう…」

私はそう言って涙を流した。

「…さよう…なら…」

私は最後にそう言って目を閉じた …

私にとって最後の力をふりしぼって言った言葉が頭を巡る

その時、自然と体が軽くなった

今までの思い出がよみがえってくる

私の言葉と想いが頭の中で

ナンドモ 何度も

交差して繰り返される

そして

消えていく

少しずつ 思いがかすれていく

記憶が剥がれ落ちて

深い闇へと

シズンデイッタ …

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1094h/>

---

短い人生

2010年12月18日14時32分発行